
特別活動

1 研究のテーマ及びねらい

(1) 研究テーマ

特別活動における資質・能力の三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動 ～生徒の実態を踏まえた指導事例～

(2) 研究のねらい

特別活動における資質・能力の三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」から、合意形成あるいは意思決定を実践するホームルーム活動を想定し、各学校において特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに評価規準を作成する際の参考となるよう、指導計画及び評価の事例を作成する。

2 研究の内容及び方法

令和4年度から高等学校学習指導要領（平成30年告示）（以下、「新学習指導要領」）が年次進行で実施されることに伴い、高等学校特別活動においても学習評価の改善が求められている。

高等学校における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる活動の状況にあると判断される場合に、「○」印を記入する。

評価の観点を定めるに当たっては、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように、各学校において具体的に定める。

評価をするに当たっては、「十分に満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を目指すのかを検討し、「目指す生徒の姿」について共通理解を図ることが求められる。なお、生徒の良さや可能性を積極的に評価することが大切である点に留意する。「○」印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することも考えられる。

このような背景から、推進委員が所属する各学校の実状をもとに上記資質・能力の三つの視点で「合意形成」あるいは「意思決定」を実践するホームルーム活動を想定し、各学校として重点化した内容を踏まえて特別活動の「評価の観点」を設定し、「内容のまとめりごとの単元の評価規準」を作成した。

《指導事例1（定時制の課程）》においては、「無人島に必要なものを選択しよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図れる生徒である。そのためには、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。最初に自分の意思を確立することの重要性を理解させ、その後、他者の意見を傾聴し、状況や目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感させ、積極的に合意形成を図れるようになることを目指した。

《指導事例2（全日制の課程）》においては、「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、年間を通しての講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら議論に参加しようとし、課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとする生徒であり、他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている生徒である。このことから、課題解決に向けて話し合いし合意形成し、自分たちで支援できることを意思決定できるようになることを目指した。

《指導事例3（通信制の課程）》においては、「前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、前期の生活や学習の課題を見いだすとともに、自己理解力と相談する力を身につけようとし、現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている生徒である。このことから、自ら学習の課題を見だし、自立した職業観を大切に、進路決定に対して意思決定できるようになることを目指した。

《指導事例4（全日制の課程）》においては、「働く意義と目的とは何か」をテーマとしている。目

指す生徒の姿としては、多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個性の要素に気付き、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとする生徒である。このことから、働くことの目的をテーマにグループ協議しながら合意形成できるようにすることを目指した。

《指導事例5（全日制の課程）》においては、「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」をテーマとしている。目指す生徒の姿としては、多様な性のあり方を知ることで、自分の個性を生かし、自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる生徒である。また、人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動できる生徒の育成を目指す生徒である。このことから、他者の個性を尊重できるようにするとともに、自らの個性を認め、自分らしい生き方について意思決定できるようにすることを目指した。

《評価補助簿について》

日々の活動や様子を観察し、蓄積していく評価補助簿は、生徒の良さを積極的に読取り、記録を蓄積していくことで、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を育んでいくこと上で重要である。生徒一人ひとりの活動の状況を把握すると同時に、学年や全校の教師が評価資料を共有することができ、共通理解を図り、学校の学年の教育方針を明確化して生徒に対する多角的・多面的指導に資することができる。「目指す生徒の姿」実現のために工夫した評価実践に補助簿を活用していくことで、より具体化された、工夫化された指導と評価の一体化が実施できると考えている。

《高等学校特別活動の「内容のまとめり」について》

・特別活動の「内容のまとめり」（高等学校）

■ ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

■ 生徒会活動

■ 学校行事

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生徒・奉仕的行事

3 指導事例

以下、5校（全日制の課程3校、定時制の課程1校、通信制の課程1校）の指導事例案については、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載します。

〔指導事例1〕神奈川県立川崎高等学校（定時制の課程）

教諭：篠崎 倫也

(1) 目指す生徒の姿

- ・社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図ろうとしている。
※その為には、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。
- ・最初に自分の意思を確立することの重要性を理解している。
- ・他者の意見に傾聴し、状況目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感し、積極的に「合意形成」を図ろうとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「無人島に必要なものを選択しよう」

① 生徒（学校）の様子（特別活動に関する現状と課題含む）

本校は、全国でも2校しかないフレキシブルスクールであり、学びの時間、場所、集団、方法を自分で考え、選択し、実践していく学校である。定時制の生徒も全日制の生徒と一緒に授業を受け、体育祭や文化祭などの学校行事を一緒に行っている。また、一部の部活動では合同で活動している。

定時制の生徒は、小学校や中学校での不登校を経験した生徒が多数在籍しており、コミュニケーションなどに不安がある生徒が多い。また、外国につながる生徒も多く、日本語能力が不十分な生徒も近年増えている。しかし、様々な国の文化や言葉と接する中で、多様な価値観への理解や、言語理解など得るものもあり、プラス面が大きく、それらを教育活動にも生かせるように試行錯誤している。

学力が低く、足し算や九九などが不確かな生徒が多い。漢字は小学校4年生レベルまでしか定着していない生徒が一定数存在する。一方、大学進学を目指す生徒もおり、毎年5名程度は大学に進学する。3年で卒業する生徒が半数程度で、4年生で卒業する生徒と合わせて7割程度となっている。卒業生の進路決定率は50～60%程度である。

また、高校からやり直したいという生徒も多く、真面目で授業をしっかりと受ける生徒も多い。授業を受ける雰囲気や姿勢は、他校・他課程と比べても遜色ないものである。

② 内容のまとめり：「ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

③ 議題：「さまざまな条件下における合意形成の方法を学ぶ」

④ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- ホームルームや学校、社会生活の中で、他者と協働して目標を達成することの意義を理解し、課題解決に向けた話合いの進め方を習得し、社会の成員としてふさわしい知性と想像力を身に付けている。【知識及び技能】
- ホームルームや学校における生活を向上・充実させるための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図り、自ら考え、実践することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 生徒会などホームルームの枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、ホームルームとしての提案や取組を話し合って決め、多様な人々との共生に活かそうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価規準

【ホームルーム活動(1)「さまざまな条件下における合意形成の方法を学ぶ」の評価規準】

集団や社会の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会の課題を解決するための思考・判断・表現	よりよい集団や社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
・ホームルーム・学校集団や社会生活の中で他者と協働して一つの目標を達成することの意義を理解し、課題解決に向けた話し合いの進め方を習得し、社会の成員としてふさわしい知性と想像力を身に付けている。	・ホームルーム活動・学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成する中で、個人としての実践目標を意思決定し、自主性と責任感を持って自ら考え、自ら実践している。	・現在及び将来の自己の活動や役割を振り返るとともに、様々な情報を収集・整理する中で、感性と協調性を育み、他者を思いやり、他者と共生できるような生き方を選択・実行しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動	【本時のねらい】「合意形成とは何か考えよう」 ・合意形成とは何か身近な例を挙げて考えさせる。その際、うまくいった場合とそうでなかった場合を比較させ、どちらがよいか考えさせる。	・合意形成とは何か正しく理解することができる。	・合意形成の必要性を考え、正しく判断することができる。	・身近な例を、自分自身と重ね合わせて考え、自分ならどうするか考えている姿勢がみられる。
ホームルーム活動	【本時のねらい】「無人島に必要なものを選択しよう」 ・無人島に滞在するときに必要なものを、班の中で合意形成して選択する。	・合意形成するために必要な技能を身に付ける。特に傾聴の姿勢と相手を尊重する態度を重視する。	・他者の意見を受け入れつつ、自分の意見を主張することができる。 ・客観的な視点を持ち、与えられた条件や題材の中で最も良い方向性は何かを考える。	・他者の意見を受け入れる姿勢を持つ。 ・自分の意見を主張しつつも、全体として意見をまとめようとする姿勢がみられる。
ホームルーム活動	【ねらい】「特殊な環境下での合意形成を目指す」 ・極地や宇宙空間などの特別な環境下での合意形成を図る。その環境下での条件設定も自分たちで検討させる。 ・前回の話し合いを元に、よりよい合意形成の方法や話し合いを身に付ける。	・合意形成するために必要な技能を身に付ける。特に傾聴の姿勢と相手を尊重する態度を重視する中で、自らの意見も主張することができる。	・他者の意見を受け入れつつ、自分の意見を主張することができる。 ・客観的な視点を持ち、与えられた条件や題材の中で最も良い方向性は何かを考える。	・他者の意見を受け入れる姿勢を持つ。 ・自分の意見を主張しつつも、全体として意見をまとめようとする姿勢がみられる。

ホームルーム活動	【本時のねらい】「クラス全体での合意形成を目指す」			
	・身近なテーマを取り上げ、クラス全体として合意形成を図り、意見を一本化することを目指す。	・グループ単位ではなく、クラス単位で合意形成を図るためにはどのような工夫が必要か理解する。	・対象の人数が増えることで、伝え方が変わること考えさえ、実行することができる。	・少ない発言の機会でも、他者の意見を聞き、全体の流れを見ながら意見を主張し、まとめる姿勢がみられる。

⑦ ホームルーム活動「無人島に必要なものを選択しよう」について

ア 議題（あるいは題材）

無人島で生きるために必要なものをグループ全体で話し合い、順位を決定する。その際に、なぜその順位なのかの理由も併せて説明できるようにする。予めこちらで選択肢を用意するが、「その他」項目を設け、自由に考える余地も残す。また、無人島の環境設定もある程度は自由に決められるようにして、各グループの特色がでるように工夫する。

イ 本時における目指す生徒の姿

社会人として生きていくために必要不可欠である「合意形成」を自然と図れる生徒を育てることを目標とする。その為には、「他者との意思疎通」「個人と他者の意見の尊重」の両立が重要になる。まず、最初に自分の意思を確立することの重要性を理解させる。その後、他者の意見を傾聴し、状況目的に応じた意見を対話しながらまとめることが「合意形成」となることを体感し、積極的に「合意形成」を図れるようにする。

ウ 本時の展開 「無人島に必要なものを選択しよう」

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入 (15分)	①前回の内容を振り返り、合意形成について確認する。 ②本時の内容の説明を聞く。	①合意形成について理解している。そして、合意形成を行う姿勢や意欲がある。
展開 (55分)	③自分の中で順位を決める。また、その理由を考える。(5分) ④3～4名程度のグループを作り、1人2分程度で自分の考えをメンバーに伝える。 ⑤司会と記録と発表者を決めさせる。 ⑥ルールに則りながら合意形成を図る。(30分) ⑦最終的な順位とその理由をまとめさせる。(10分)	③自分の考えが最も重要なベースとなるので、しっかりと理由を含めて考えることができる。 ⑥⑦自分の意見を主張しつつ、他者の意見をうまく取り入れるバランス感覚を持つ。合意形成を図るためには、相手の意見を全面的に受容することの重要性を実感し、実践できる。
終末 (20分)	⑧本時の振り返りのワークシートを記入し、合意形成ができたかどうか、また、改善点はあったかなどを振り返りシートに記入させる。(15分) ⑨全体のまとめ、総評を行う	⑧じっくり今日の自分と向き合い、反省することができる。そして、今回の話し合いを踏まえて、次回話し合いをより密度の濃い、全員の満足度が高い話し合いにする意識を持つことができる。

⑧ 補足

・本時の展開の⑥のルールは、

1. 相手の意見を否定しない
2. 確たる自分の意見を持つが、固執しすぎない
3. 話し合いですべて決めさせる（意見が食い違ってもジャンケンなどで決めない）
4. 相手を説得（納得）させる
5. 場面（条件）設定は各グループである程度は自由に決めてよい

を基本的なルールとする。人数が多ければ、同じ人が連続で話さないなど入れてもよい。

⑨ 評価

・評価については、補助簿などを作成し、個別に評価していく。

（補助簿の例）

番号	目指す生徒の姿		自己の意見を持ち、相手に伝えようとしている。	他者の意見を取り入れ、話し合いをより良いものにしようとしている。	「合意形成」の意義を理解し、意識した言動を取ろうとしている。	メモ	総括
	名前						
1	A						
2	B						
3	C						
4	D						

⑩ まとめ（解説として）

・総評としては、話し合いの過程を評価するコメントに重点を置きたい。また、最終的にクラス全体で合意形成を行うことを目標とすることも伝え、どうしたらより多くの人と合意形成ができるかを意識させる機会としたい。

・話し合いが終わってしまったグループがあれば、その他の項目（持っていくもの）を考えさせることや、こちらから条件設定をして、もう一度話し合いが最初からできるようにする。

・振り返りのワークシートには、良かった（上手くいった）点と、失敗した点を書かせ、今後につなげる。また、次回への改善点（改善策）を書かせる。そして、相手の良かった点も書かせて、グループやクラスで共有し、合意形成に必要なものをグループ単位やクラス単位で考えさせる。

(1) 目指す生徒の姿

- ・ 今までの講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら、議論に参加しようとしている。
- ・ 課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとしている。
- ・ 他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

① 生徒（学校）の様子

本校は1学年9クラス編成の在籍人数は1000人を超える全日制普通科の高校である。「チャレンジからその先の自分へ!」を合言葉に、何事にも挑み続ける気持ちを大切にしている。生徒は素直で真面目であり、個人での活動やグループワークには主体的に取り組んでいる。しかし、クラス全体への発問の反応が薄かったり、発表に消極的であったりする面がある。こうした現状を踏まえ、主体性を高め、リーダーとして求められる資質・能力の育成に取り組んでいる。

② 内容のまとめ：「ホームルーム活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

③ 議題：「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

④ ホームルーム活動(2)で育成を目指す資質・能力

- 多様な他者と協働する様々な集団生活の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けている。【知識及び技能】
- 人間としての在り方や生き方の自覚を深め、主体的に物事を選択し、現在及び将来を豊かに生きるための態度や能力を養うことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 本校の教育目標「豊かな人間性と望ましい社会性を備え、地域や社会に貢献し、リーダーとして次世代を担う人材を育成する」を踏まえ、自己の現在や将来の生活改善とともに、他者の豊かな人生を願い、支援する態度や能力を育もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価基準（意思決定に重点化）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。 ・ 適切な意思決定を行い、実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間としての在り方や生き方について自覚を深め、自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見出している。 ・ 多様な視点から課題の解決方法を探り、自ら意思決定して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者への尊重と思いやりを深め、互いのよさを生かす関係をつくろうとしている。 ・ 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向かって、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え、取り組もうとしている。 ・ 自他の健康で安全な生活を進んで構築しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	交通安全教室 ○ねらい 交通ルールを守る大切さ、命を守る大切さを知り、交通安全意識を高める。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	自転車乗車マナーの確立と交通法規の遵守の意義を理解している。危険を予測する能力を高める。	適切な自転車の運転技術だけでなく、危険を察知し、回避するための適切な判断や行動を実践している。	登下校や日常の道路利用について、自己の課題を見だし、改善しようとしている。
ホームルーム活動2	携帯電話教室 ○ねらい スマートフォン、インターネットの利用を自ら律することのできる力を養う。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	自らがトラブルを回避し、被害者にも加害者にもならないために必要な知識や考え方を身に付けている。	ネットの特徴と仕組みを知り、マナーを守って、携帯電話を使用することを実践している。	今までの携帯電話やネットの利用を振り返り、自己の課題を見だし、改善しようとしている。
ホームルーム活動3	薬物乱用防止教室 ○ねらい 薬物乱用は心身や社会に深刻な影響を与えることを理解し、適切な意思決定ができる。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	心身の健康被害、薬物に関する法規、社会問題について学ぶことの意義を理解している。	依存性薬物を使用するきっかけやその誘因の可能性を考え、回避や拒否するための行動選択ができる。	薬物の誘惑に負けない強い意志を確認している。
ホームルーム活動4	性教育教室 ○ねらい 発達段階に応じた性の知識を正しく理解し、性の諸問題に対して適切な意思決定や行動選択ができる。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	心や体に関する正しい知識を基に、自分の人生や相手を尊重する態度の必要性を理解している。	同性や異性との人間関係や今後の生活において直面する性の課題に対して、適切な行動を考えることができる。	習得した知識を基に自分と相手进行いやり、将来設計について主体的に考えている。
ホームルーム活動5	喫煙防止教室 ○ねらい 喫煙、飲酒等が健康や社会に及ぼす影響の重大性を理解し、自らの生活をコントロールできる力を養う。 ○学習活動 講演を聞き、振り返りシートを記入する。	喫煙や受動喫煙が健康や社会に及ぼす影響について理解している。	喫煙のない社会、世代づくりを推進するために、自分ができることを考えている。	喫煙防止に向けての取組に関心を持ち、自他の健康について主体的に考えている。

ホームルーム活動6	<p>「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p> <p>○ねらい 今までの各教室で学んだことを自他の成長や生活に結びつけ、的確な行動選択することができる。</p> <p>○学習活動 個人とグループでワークシートに取り組み、グループでテーマについて協議し、意見をまとめる。</p>	<p>自他の成長や生活に関する課題を見つけ、必要な知識及び技能を身に付けている。</p>	<p>グループで様々な場面を想定し、合意形成を図りながら、的確な行動選択することができる。</p>	<p>自他の成長や生活に結び付け、より健康で安全な生活について改善しようとしている。</p>
ホームルーム活動7	<p>「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p> <p>○ねらい 各テーマの課題をクラスで共有し、これからの生活に活かそうとする。</p> <p>○学習活動 ・各グループで考えたことを発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、ワークシートを記入する。</p>	<p>班の発表から必要な知識及び技能を理解している。</p>	<p>グループで協力し、わかりやすい発表をすることができる。</p>	<p>班の発表を真剣に聞き、自分の成長や生活の中で活かそうとしている。</p>

⑦ ホームルーム活動「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」について

ア 背景

講演会などの各テーマに沿ったホームルーム活動をすべて終了し、ホームルーム活動(2)のまとめの活動として、グループ活動と発表を設定している。各テーマのホームルーム活動で、毎回個人の振り返りシートを作成している。

イ 題材「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

ウ 本時における目指す生徒の姿

- ・今までの講演内容を振り返り、想定した場面の先を見通しながら、議論に参加しようとしている。
- ・課題について主体的に考え、現在や将来の生活改善に取り組もうとしている。
- ・他者の豊かな人生を願い、自分たちが支援できることを考えようとしている。

エ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入	<p>1 今までの各教室で学んだことを共有する。 振り返りシート返却や各教室の様子を収めた写真をスライドで提示するなど内容を確認する。</p> <p>2 本日の学習課題を提示する。 「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」</p>	<p>交通安全・携帯電話・薬物乱用防止・性教育・喫煙防止の5つのテーマで学んだことを振り返る。</p> <p>学習課題を理解し、自己の生活を振り返り、課題を見いだそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p>

展 開	3 4人程度のグループをつくる。くじでグループのテーマを決める。 4 個人でワークシートを記入する。	決められたテーマについて把握する。 テーマについて、自分の成長や生活と結びつけながら、主体的に考えようとしている。【知識・技能】
展 開	5 グループでワークシートの内容を共有する。主人公について、テーマに関する場面を設定し、どうすれば良いかグループで議論し、意見をまとめる。 6 グループで次回の発表準備を行う。	想定した場面について、3つの視点に分けて、どうすれば良いかを考えようとしている。なるべく具体的で実践しやすい場面や対策を考え、積極的に話し合いに参加しようとしている。【思考・判断・表現】 スライド、模造紙、劇など発表形式も班によって工夫する。発表における自分の役割を見つけ、グループで協力しながら取り組もうとしている。【思考・判断・表現】
終 末	7 本時の振り返り	自己の成長や生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解している。【主体的に学習に取り組む態度】

⑧ ワークシートについて

- ・グループのテーマ決めは、くじなどランダムなものにする。特定のテーマに集中することを防ぐためと、どのテーマも自分自身に関係があり、当事者意識をもたせることをねらいとしている。
- ・ワークシート1枚目は個人でテーマについて今までの生活を振り返る。個人の振り返り内容は、グループで共有してもいいものについて書くよう指導する。困ったことが思い当たらない場合や話したくなければ書かなくてもよい。生徒の心情に配慮し、いじめや偏見等につながらないように留意する。
- ・ワークシート2枚目はグループ活動で使用する。クラス共有の主人公を設定する。各グループで場面を設定できれば良いが、難しい場合は例を提示する。例について、3つの視点で協議できれば良い。

想定する場面の具体例

	いつ	どこで	誰と	何が起きたのか
交通安全教室	下校中	交差点	友人	後ろから来た車と接触した。
携帯電話教室	夜	自宅	一人	友人と些細なことで喧嘩をしたので、無料通話アプリ上のグループから仲間外しをした。
薬物乱用防止教室	放課後	先輩宅	先輩	先輩からよくわからない薬の使用を勧められた。
性教育教室	夜	自宅	一人	SNSで仲良くなった友人から「車で遊びに行こう」と誘われた。
喫煙防止教室	休日	友人宅	友人	友人の家族が吸っている煙草が近くにあり、興味本位で喫煙を企てる。

3つの視点

- ① 想定した場面に主人公が遭遇したとき、主人公はどのような態度や行動がふさわしいか。
- ② 想定した場面に主人公が遭遇したとき、主人公の友人として、どのような行動をとることができるか。
- ③ 想定した場面について、社会や制度の観点からどのようなことができるか。

⑨ 総括的な評価の方法の工夫

単位時間の振り返りやグループ活動への取組を通して、観点に合わせた補助簿を作成し、総括的に評価する。ホームルーム活動(1)と(3)と合わせて、ホームルーム活動の評価となるので、煩雑にならないよう留意する。各項目の○の数が3つ以上付いたら、「十分に満足できる活動の状況」とするなど、校内の共通理解を図り、方針を明確にする。メモ欄に生徒の様子を記録しておくことで、評価の参考資料とすることができる。

出席番号	目指す生徒像	各テーマ			グループ活動			メモ	総括
		知識	表現	態度	知識	表現	態度		
氏名	身に付けている。	テーマに応じた必要な知識や行動の仕方を	多様な視点から課題の解決方法を探り、自ら意思決定して実践している。	自他の健康で安全な生活を進んで構築しようとしている。	自己の成長や生活に関する課題を見つけ、必要な知識及び技能を身に付けている。	確かな行動選択することができる。	協議に参加し、合意形成を図りながら、的	自他の成長や生活に結び付け、健康で安全な生活について改善しようとしている。	担任は適宜メモを残し、そのコメントの内容を総括的な評価に活かすことが考えられる。
1									
2									

⑩ まとめ（解説として）

どの学校でも「ホームルーム活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導は各テーマの講演会を聞き、個人で振り返りシートを記入することが多いのではないかと。今回は一年間のまとめとして、グループ活動と発表を設定した。各テーマのホームルーム活動とまとめの時期が離れているため、知識が希薄であることが考えられる。グループで再度考えることや自己の成長や生活と結びつける具体的な活動によって、各テーマの重要性を改めて理解し、見識を深める。今までテーマごとの単一的なホームルーム活動やグループ活動だったものが、一貫した自己の成長及び健康安全の教育となることを期待している。

指導案は主人公や主人公の友人の視点になることで、模範的な回答に留まらず、生徒の自由な意見を引き出しやすくしている。グループで想定する場面は、テーマによって生徒が言い淀んでしまうことが考えられるため、具体例を準備した。主人公が被害者になる場合だけでなく、加害者になる場合も例に含めた。主人公の軽率な行動が犯罪につながる危険性をより身近に感じ、責任をもった意思決定や行動選択する力を養う。また、本校の教育目標「リーダーとして次世代を担う人材を育成する」に沿って、自己の成長及び健康安全だけでなく、他者の豊かな人生を願い、支援する態度や能力を育む指導展開としている。

評価は、目指す資質・能力がどのように成長しているかに着目する。評価規準が抽象的な表現であるため、上記の補助簿では足りないことが考えられる。どのような点でどう評価したかを明確にする評価基準の設定が今後の課題である。

本日の課題

「心身ともに健康で安全な生活のために何をしていくか」

これまで5つのテーマに分かれて、心身ともに健康で安全な生活について学びました。今日はテーマに沿って、個人やグループで自分の生活を振り返ったり、将来の人生に起こることを考えたりしましょう。

1	月 日 ()	交通安全教室
2	月 日 ()	携帯電話教室
3	月 日 ()	薬物乱用防止教室
4	月 日 ()	性教育教室
5	月 日 ()	喫煙防止教室

私たちのグループのテーマは
 () です。

まず個人で**テーマについて**考えよう。

自分が気を付けていること・守れていることは何ですか。	
自分にまだ足りないことはありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 ()
自分に何か困ったことが起きたことがありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 () どのように解決しましたか。
家族や友人に何か困ったことが起きたことがありますか。	□はい □いいえ どのようなことですか。 () どのように解決しましたか。
心身ともに健康や安全な生活のために、何が大切だと思いますか。	

記入日：令和（ ）年（ ）月（ ）日（ ）

（ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

主人公：神奈川県内の高校に自転車で通う高校1年生。

部活動はテニス部，本が好きで図書委員の活動も熱心である。

場面を設定しよう。

いつ	どこで	誰と	何が起きたのか

想定した場面が発生したら・・・

	視点① 主人公は	視点② 主人公の友人として
発生時	どうする？	どうする？
発生後	どうなる？ 誰に報告・相談する？	どうなる？ 誰に報告・相談する？
良い対応		
悪い対応		
発生前にできる対策		
大事なこと	自分の健康で安全な生活のために () していきます。	他者の健康で安全な生活のために () していきます。

+ α (時間があれば取り組もう)

視点③ 想定された場面に，社会としてできることは何があるか考えよう。

例) ○○を設置するといい。○○のような制度・施設があればよい。

(1) 目指す生徒の姿：

- ・前期の生活や学習の課題を見いだすとともに、自己理解力と相談する力を身に付けている。
- ・現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう。」

① 学校及び生徒の様子

ア 学校の様子

・本校は単位制による通信制の課程普通科高等学校である。生徒の在籍数は1,954人（令和3年12月時点）である。そのうち、令和3年度に学習活動に取り組んでいる活動生は1,630人である。

・学習指導要領総則第2款の「5 通信制の課程における教育課程の特例」（1）には各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の標準が示されている。本校では、この標準に従って生徒は各教科・各科目で決められた数のレポート（報告課題）の添削指導に合格し、決められた数のスクーリング（面接指導）に出席する。

特別活動については、学習指導要領総則第2款の「5 通信制の課程における教育課程の特例」（6）にあるように、各生徒の卒業までに30単位時間以上指導する。本校生徒は30単位時間以上を満たすために、ホームルーム活動や学校行事等に出席・参加する。どの活動に出席・参加するかは生徒各自の判断にゆだねられており、たとえホームルーム活動であっても、同一クラスの生徒が特定の時間に全員出席して、クラス単位で一斉に活動に取り組む機会はほとんどない。また、学校行事に参加するよりも、出校時にショートホームルームに出席して卒業要件の30単位時間を積み重ねるのが、本校の特別活動の実態である。

イ 生徒の様子

・本校には身体的障害や発達障害等の困難を抱える生徒、小中学校で1年以上の不登校経験者が数多く在籍する。外国につながる生徒も多い。また、幼い子どもを養育している生徒やヤングケアラーの生徒も少なくない。

生徒の傾向として、学校生活や家庭生活を通じた実体験の不足が目立つ。コミュニケーションに課題を持ち、他者との適度な距離をとれない生徒も多い。社会性を育むことがキーワードである。学校のシステムとしては入学後2年目以降、3種類のキャリア教育（進学、就職、就労移行支援や高校通級指導）を実施することでSST（ソーシャルスキルトレーニング）としているが、これに参加しない生徒は協働学習や学校行事などで友人と関わり、合意形成や意思決定する場面はほとんどない。

・73年前に勤労青年に対する教育の機会均等を目指したシステムとして設定された通信制は自学自習を基本としたが、現在では生徒の多様化が進み、「いま何をすべきか、来月は何をすべきか」という見通しを立てることに困難を抱える生徒が多い。また、自己肯定感が極めて低い生徒、理想と現実の折り合いをつけられない生徒など、自己像を捉えることにも課題が見られる。これらの課題は、将来の見通しを持つことへの困難や不安に少なくない影響を及ぼしている。卒業に向けての学習も紆余曲折する場合があり、卒業しても進路が未決定のケースも多い。

令和2年度の卒業者の進路動向は、進学が33%、就職が8%、職業継続が3%、その他が56%である。この割合は、この3年ほどで大きな変動はない。（その他には、進学予定者のほかに、就労移行を含む就職準備やアルバイトで生計を立てている者も含まれる。さまざまな理由から正社員になることに困難のある生徒も多く、アルバイトはその他に

含んでいるが、本校では就職にほぼ等しい位置づけである。)

・本研究では、ホームルーム活動におけるキャリア・パスポートの作成を通して、生徒自らが自己理解を深め、学習の見通しを立て、少しでも高校卒業及び卒業後の展望を抱けるようになることを目指している。

② **内容のまとめ** 「ホームルーム活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

③ **題材** 「これまでの学習を振り返り、来年度の学習計画を立てよう」

④ **ホームルーム活動(3)で育成を目指す資質・能力**

○ 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と卒業後の社会・職業生活とのつながりと考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。【知識及び技能】

○ 現在の自己の学習と卒業後の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、卒業後の自己像を描くとともに自らの意志と責任で進路の選択決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

○ 卒業後の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ **単元の評価規準** (自立と社会参画に重点化)

【ホームルーム活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準】

卒業後の自己と学びを結びつけて行動するために必要な知識・技能	人間としての在り方生き方をよりよいものにするための思考・判断・表現	主体的に人間としての在り方生き方を選択・実行しようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学習と卒業後の社会的・職業的自立とのつながりを理解している。 ・これまでの学習活動を振り返りながら、自分らしい生き方を実現するために、必要な知識及び技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自己の学習と卒業後の生き方や進路についての課題を見だししている。 ・主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描いている。 ・進路選択の意思決定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返り、自主的に改善しようとしている。 ・働くことと学ぶことの意義を理解しながら、社会的・職業的自立に向けて主体的に選択・実行しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
ホーム ルーム 活動	(4月) 受講手続き ○ねらい ・これまでの生活を踏まえ、自分なりに努力をして改善しようと考えていることを設定する。 ○活動 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って今年度の目標を記載する。	これまでの学習を振り返り、個人目標を設定する方法を身に付けている。		主体的に自己の学習を振り返り、改善しようとしている。
ホーム ルーム 活動	(10月) 履修ガイダンス ○ねらい ・前期の生活や学習の課題を見だし、改善しようとしている。 ・進路選択に向けて適切な情報収集をし、将来の生き方を描く。 ○活動 ・来年度の学習計画を立てる。 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って、前期の学習を振り返る。		前期の生活や学習の課題を見だし、自己理解力と相談する力を身につけようとしている。	現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしている。自立した将来の生き方を描こうとしている。
ホーム ルーム 活動	(2月) 履修登録 ○ねらい ・現在の学習と卒業後の生き方や自立が結びついていることを理解し、進路選択について意思決定ができる。 ○活動 ・来年度の学習活動を確認する。 ・ワークシート(キャリア・パスポート)を使って1年間の学習を振り返る。	現在の学習と卒業後の進路実現と自立のつながりを理解している。	自らの意志と責任で進路の選択ができる。	

⑦ ホームルーム活動「これまでの学習を振り返り、来年度の学習計画を立てよう」について

ア 題材

- ・前期の学習を振り返り、後期の学習目標を立てるとともに、来年度以降の学習への見通しを立てよう。

イ 本時における目指す生徒像

- ・前期の生活や学習の課題を見だすとともに、自己理解力と相談する力を身に付けている。
- ・現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとしており、自立した卒業後の職業観を描こうとしている

ウ 本時の展開

	学習内容及び学習活動	目指す生徒の姿
導入	1 本時の活動内容や、その意義について確認する。	*本校における学びのシステムを理解する。
展開	2 ワークシート（キャリア・パスポート）を使って、前期の学習を振り返る。（個人） 3 担任と学習状況の確認をする。 4 来年度の学習計画を立てる。（個人） 5 来年度の学習計画について担任と確認する。	○前期の生活や学習の課題を見いだしている。 【思考・判断・表現】（観察・ワークシート） ○現在の生活や学習を振り返りながら、主体的に改善しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（観察・ワークシート） ・生徒の思いが言語化できるように支援する。 ・否定的に物事をみるのではなく、前向きに物事を考えられるように声かけする。 ○自己理解力と相談する力を身につけようとしている。【思考・判断・表現】（観察） ○自立した卒業後の生き方を描こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（観察） ・来年度卒業予定になる可能性の高い生徒には、進路活動に向けて情報収集を行うことの意義を伝える。
終末	6 後期の学習活動について見通しを立てる。	

⑧ ワークシート

令和□年度 キャリア・パスポート① (案) _____組 名前_____

受講手続き (4月)

記入日: _____年 _____月 _____日 ()

1年のはじめに、高校生活を送りたいか考えましょう。

① 4つの力のなかで、この1年で身につけたい力にチェックをいれましょう。

<p>関わる力 (人間関係力・相談する力)</p> <p><input type="checkbox"/>相手の立場を理解し、その人の考えや思いを受け止める。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の考えや気持ちを整理する。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の考えや気持ちを工夫して相手に伝える。</p> <p><input type="checkbox"/>自分がどのような役割や仕事をするべきか考える。</p> <p><input type="checkbox"/>周りの人と協力して行動する。</p>	<p>自分を知る力 (自己理解力)</p> <p><input type="checkbox"/>自分の長所と短所を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の良いところを伸ばし、悪いところを強みに変える。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の感情をコントロールして行動する。</p> <p><input type="checkbox"/>苦手なことにも取り組む。</p> <p><input type="checkbox"/>自分が成長するために学ぶ。</p>
<p>問題と向き合う力 (課題解決力)</p> <p><input type="checkbox"/>調べたいことに対して、自分から資料や情報を集める。</p> <p><input type="checkbox"/>信頼できる情報か判断し、必要な情報を選んで活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>同じような問題がまた起きないように、原因を調べて解決する。</p> <p><input type="checkbox"/>見通しを持って計画を立てて行動し、それを振り返りながら自分の行動をより良いものにする。</p>	<p>自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)</p> <p><input type="checkbox"/>学ぶことや働くことの意義を考え、様々な生き方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>いまの学びと卒業後の自分をつなげて考える。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業後について具体的な目標を立て、その実現の方法を考える。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業後の目標に向けて具体的な行動を起こし、その行動を振り返ってより良いものにする。</p>

② 学校生活において、どのような1年を送りたいですか。2行以上書いてみましょう。

★①でチェックを入れた内容を参考にしましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



令和□年度 キャリア・パスポート② (案) ____組 名前_____

履修ガイダンス (10月)

記入日: _____年 ____月 ____日 (____)

前期の学習を振り返って、後期の学習につなげましょう。

① あなたの前期のスクーリングやレポートの取り組みを振り返りましょう。

スクーリング	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった。 (くわしく書きましょう) ★がんばったこと、うまくいかなかったこと 
	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった。 (くわしく書きましょう) ★がんばったこと、うまくいかなかったこと 

② 後期の学習に向けて、これからやりたいことを書いてみましょう。

スクーリング
レポート

③ 受講手続きのときの「身につけたい力」について、振り返りましょう。

*できたこと、もっと伸ばしたいことなどを言葉にしてみましょう。

関わる力 (人間関係力・相談する力)	自分を知る力 (自己理解力)
.....
問題と向き合う力 (課題解決力)	自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)
.....

令和□年度 キャリア・パスポート③ (案) _____組 名前_____

履修登録 (2月)

記入日: _____年 _____月 _____日 ()

① 今年度を振り返って、あなたの成長をまとめましょう。4月の目標と比べましょう。

関わる力 (人間関係力・相談する力)	自分を知る力 (自己理解力)
成長できたところ	成長できたところ
成長したいところ	成長したいところ
問題と向き合う力 (課題解決力)	自分の未来を描く力 (卒業後の職業観)
成長できたところ	成長できたところ
成長したいところ	成長したいところ

② 将来の自分自身を想像しましょう。

	どんなふうになっていたいか	そのために今から何をするのか
来年の私
3年後の私

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

⑨ 総括的な評価の方法

総括的評価のために作成した補助簿には、本校の「育てたい生徒の力」に基づいて作成した、評価規準および各ホームルーム活動の「目指す生徒像」の観点を反映した。煩雑さを避けるために、各項目に○を記入する形式にした。各項目の評価にあたっては、「生徒のどのような姿」が○をつける基準になるのか、共通理解を図りたい。

メモ欄には生徒から聞き取った情報を入れるなど活用することで、担任が変わったときの引継ぎ資料にもできる。

観点は知識・技能を「知・技」、思考・判断・表現を「思・判・表」、主体的に学習に取り組む態度を「態度」と表している。

() 組 生徒証番号	目指す生徒像 氏名	受講手続き		履修ガイダンス		履修登録		メモ	総括
		知・技	態度	思・判・表	態度	知・技	思・判・表		
		これまでの学習を振り返り、個人目標を設定する方法を身に付けている。	主体的に自己の学習を振り返り、改善しようとしている。	前期の生活や学習の課題を見出し、自己理解力と相談する力を身につけようとしている。	現在の生活や学習を振り返り、主体的に改善しようとし、自立した将来の生き方を描こうとしている。	現在の学習と卒業後の進路実現と自立とのつながりを理解している。	自らの意志と責任で進路の選択ができる。	メモ欄には生徒のようすなど、総括的評価に関わるもののほか、今後の学習指導に役立つものを記載することが考えられる。	

総括的な評価については、○が3つ以上付いたら、「十分に満足できる活動の状況」とするなど、教員間の共通理解を図る。

⑩ まとめ（解説として）

本研究では、特別活動の内容として、ホームルーム活動におけるキャリア・パスポートの作成を題材にした。

「①学校及び生徒の様子」で述べているように、本校では特別活動において、集団活動を行うことが難しい。その理由として、単位制による通信制の課程である本校では、継続的に生徒が集まることはほとんどないことに加え、人間関係を築くことに課題があったり、人間関係に傷ついてきたりした生徒が多いことが挙げられる。教科のスクーリングを含めた校内活動では、集団活動は、ほとんど行われぬのに加えて、部活動や生徒会活動に参加する生徒を除くと、むしろ生徒も集団活動を避ける傾向がある。

そのため、本校のような高等学校では、新学習指導要領の特別活動で育てたい力として示された、集団の中での「合意形成」「意思決定」をキーワードに指導案を作成するのは非常に難しい。しかし、キャリア形成に向けた「意思決定」であれば可能ではないかと研究委員会で助言いただき、キャリア・パスポートの活用を指導案の中心に置いた。

本指導案では、キャリア・パスポートの作成を行う時期として受講手続き（4月）、履修ガイダンス（10月）、履修登録（2月）の3回を設定した。本校で学習活動が続ける意志のある生徒は、この3回の特別活動に出席する。また、1年を通して、ホームルーム担任が生徒と向き合う貴重な機会であり、生徒理解を深めるタイミングでもある。さまざまな理由により学習を継続することに困難の伴う生徒に対して、学習と向き合い、卒業を目指すことへの動機づけにもなると想定した。

履修ガイダンスと履修登録は次年度も本校で学習を継続し、卒業を目指す生徒を対象としている。そのため履修ガイダンス時に卒業予定である生徒や、履修登録時に卒業が確定した生徒は、個別のキャリア・パスポートを作成するための時間を設定する必要がある。

本校における「育てたい生徒の力」は、「『自立と社会参加』のための自己理解力と相談する力」である。全日制高校に在籍する生徒の大半が、社会に対して課題を見いだしていくのに対し、通信制高校である本校に在籍する生徒はその前段階にある。まずは自己の内面を見つめ、自己理解を高めることが必要となる。そのうえで、より良い対人関係に向けて一歩踏み出すために、信頼できる誰かを見つれたり、その誰かに相談したりする経験を重ねることが大切になってくる。指導案にはこの2つの力の育成を反映させた。

本校生徒の多くに共通する傾向として、認知上の特性の有無に関わらず、長期的な視野に立って将来を展望することへの困難がある。そのため、漠然とした「将来」という語句を使わず、「卒業後」という表現を用いた。また、思いを言語化するのが苦手な生徒への配慮として、項目を選択し、そこから記述に向かうように工夫した。また、書字障害や認知上の特性の強さがある生徒でも取り組みやすいように、余裕を持ったレイアウトにし、混乱がないように1度に取り組む内容を1枚にした。進路を見いだせない生徒、あるいは、高校卒業が迫ることで、漠然とした不安に駆られ学習が停滞する生徒が、卒業後の自分を思い描くことで、これらの困難を乗り越え、前向きに学習活動や学校生活に取り組ませるきっかけとしたい。

今後、この指導案を基に、校内でキャリア・パスポートを実施するにあたっては、ワークシートの分量や内容だけでなく、卒業予定者や卒業確定者にキャリア・パスポートに取り組ませる時期、キャリア・パスポートの保管方法など検討した上で、生徒にも教員にも過度の負担のない形として進めていきたい。

(1) 目指す生徒の姿：

- ・多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個人性の要素に気づき、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「働く意義と目的とは何かを考えよう」

① 生徒（学校）の様子

- ・本校は、教育課程研究開発校（「総合的な探究の時間」に係る研究）の指定を受けており、総合的な探究の時間において、1学年では企業との連携を行いながら探究のプロセスを理解し、探究のサイクルを実践する経験を積んでいる。また、学力向上進学重点校エントリー校として課題解決力と発展的な学力の伸長を目指しており、特別活動においても、総合的な探究の時間との関連を図りながら課題解決に向けて主体的・協働的に取り組む活動を行っている。
- ・生徒は、第一志望の進路実現に向けて必要な情報を自ら収集し、計画的に学習に取り組む姿が見られる。1学年に文理選択と各系内での科目選択、また、2学年には3学年に履修する科目の選択が行われるが、生徒が大学進学を見据えて必要な科目を選択する。
- ・生徒会活動や学校行事では、生徒会役員や各行事実行委員会が意見を出し、主体的に活動に関わっている。また、文化祭等のホームルーム単位で行う活動においても、生徒が主体となって合意形成や意思決定をしながら協働して企画を実行する姿が見られる。
- ・本校では、各学年のキャリア・パスポートが進路の手引きと一体化されており、進路選択のための情報や、定期試験、行事の振り返りなどが一冊にまとまっている。本研究では、ホームルーム活動でのキャリア・パスポート（進路の手引き）の活用法を含めて、キャリア形成と自己実現に焦点を当て、自分らしい生き方を実現していくための進路の選択決定ができるようになることを目指したい。

② 内容のまとめり：「ホームルーム活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」

③ 題材：「働く意義と目的とは何かを考えよう」

④ ホームルーム活動(3)で育成を目指す資質・能力

- 社会の一員として自分の役割を果たしながら、よりよく生きることや、自己実現を図ることの意義を理解し、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために必要な知識及び技能が身に付けている。【知識及び技能】
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することなど、適切な情報を得ながら自己の将来について考え、自分らしい生き方を実現していくための進路の選択決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価規準（自己実現に重点化）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として自分の役割を果たしながら、よりよく生きることや、自己実現を図ることの意義を理解している。 ・現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために必要な知識および技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の置かれている環境を様々な角度から理解するとともに、現在の自己の学習に関する課題、及び将来の生き方や進路についての課題を見いだしている。 ・主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することなど、適切な情報を得ながら自己の将来について考え、進路の選択決定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返ろうとしている。 ・働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	キャリア・パスポートを用いて自分を見直し高校生活での目標・抱負及び具体的手立てを考える ○ねらい これまで及び現在の自己を振り返り、自己を見直し、今後の目標と抱負を掲げて高校生活のスタートを切る。 ○活動 キャリア・パスポートに記入する。	中学までの自己の振り返りを踏まえ、今後の目標の設定方法を身につけている。		高校での生活や学習の在り方について考え、具体的な手立てをもって生活や学習に取り組もうとしている。

<p>ホームルーム活動2</p>	<p>「働く意義と目的とは何か」を考えよう ○ねらい 働くことの意義と目的について、考える。 ○活動 ・「人は何のために働くのか」等を考え、ワークシートに記入し、グループで共有する。 ・グループ内の様々な意見をまとめる中で、働くことの意義と目的の理解を深める。</p>	<p>働く意義と目的について考えるために必要な知識と技能を身につけている どんな目的を大切にして働きたいかなど、自己の将来の在り方について理解している。</p>	<p>働く目的について、経済性以外の側面を見いだし、自分が考える働く意義を説明している。 他者との共有の中で、自己をよりよく生かす自己実現性と、社会に貢献するという社会性を見い出して自分なりに理解し、まとめている。</p>	
<p>(総合的な探究の時間) ホームルーム活動3</p>	<p>企業講演 県立高校生学習活動コンソーシアム ・企業紹介、現在取り組んでいる課題等について(カゴメ、大塚製薬) ・現代的な諸課題について</p>	<p>働く意義の中に、社会とのつながりや社会貢献があることを理解している。</p>		<p>様々な役割や職業がどのように社会を支えているのかに気付き、現在の生活や学習の在り方を振り返って目指すべき自己の将来像を描こうとしている。</p>
<p>ホームルーム活動4</p>	<p>キャリア・パスポートを用いて、未来の自分を思い描く ○ねらい 自分らしい生き方を考え、未来の自分を思い描く。 ○活動 キャリア・パスポートにMy Future Planを記入する。</p>		<p>現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを理解し、必要な知識や資格、進むべき学部や学科を見通して自己の課題を見いだしている。</p>	<p>自己のよさや個性、能力や適性をもとに、将来を設計しようとしている。</p>
<p>ホームルーム活動5</p>	<p>「将来を見通し、今やるべきことを考え、実践する」 ○ねらい 自己実現のために必要な学問分野を見つけ、現在の自己の課題を見い出して日常生活の改善や学習に取り組む。 ○活動 キャリア・パスポートに記入する</p>	<p>適切な情報を収集しながら自己の将来について考え、文理および科目選択などの進路の選択決定ができていく。</p>	<p>自己の将来の生き方や進路についての課題を見いだしている。 自己の将来の生き方や生活について見通しを持ち、進路計画を設計している。</p>	<p>自らの適性や能力を生かして仕事や役割を担うことが社会づくりにつながることを理解し、主体的に日常生活を改善し、新たな学習に取り組もうとしている。</p>

⑦ ホームルーム活動「働く意義と目的とは何かを考えよう」 について

ア 題材「働く意義と目的とは何かを考えよう」

働く目的として、収入を得るためという経済性は誰しも考える。その中で、「人はなぜ働くのか」という課題に対して複数の視点から考え、個人の意見をまとめ、それをグループで共有することで多面的な視点で考え、経済面以外の自己をよりよく生かす自己実現性や社会の一員として社会に貢献するという社会性に気付き、自分が大切にしたい働く目的や働く意義を見いだせるように展開する。

イ 本時における目指す生徒像

- ・ 多面的な視点から働く意義と目的について考え、経済性以外の社会性と個人性の要素に気付き、働く意義について実感し、働くことの目的として大切にしたい自分の思いを捉えようとしている。

ウ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入	<p>1 人生の中で職業生活は多くの時間を占めることになり、いきいきと働くことは豊かで実り多い人生をおくることにつながることを理解する。</p> <p>2 「人はなぜ働くのか」収入を得るためという経済性からの目的について認識する。</p>	
展開	<p>3 「人は収入を得るために働くのか」という課題について、個人でワークシートを記入する。</p> <p>4 グループでワークシートの内容を共有し、話し合う。</p> <p>5 グループでの話し合いを受けて、自分はどういう目的を大切にしたいかを考え、まとめを記入する。</p>	<p>○収入を得る以外に働く目的について、多面的な視点から考え、自分の意見をまとめることができる。【知識・技能】</p> <p>○働く目的について、経済性以外の側面を見だし、自分が考える働く意義を説明している。【思考・判断・表現】</p> <p>○さまざまな意見を聞く中で、働く意義として自己をよりよく生かす自己実現性と、社会に貢献するという社会性を理解し、自分なりにまとめている。【思考・判断・表現】</p>
終末	6 本時の振り返り	

働く意義と目的とは何だろうか？

問い、人はなぜ働くのか？

国民に対して行われた調査においても、多くの人が「収入を得るために働く」と考えている。「収入を得るため」という働く目的について、「そう思う」と「そうは思わない」の二つの立場からの意見を、自分なりにまとめてみよう。

そう思う（人は収入を得るために働く）立場

そうは思わない（人は収入を得るために働くのではない）立場

次に、「収入を得るため」以外に、どのような働く目的があるか考えてみよう。

みんなの意見を聞いて、気づいたことや感じたことを書こう。

自分はどんな目的を大切にしたいか、今の気持ちを書いてみよう。

3. 和高中生になって －中学の振り返りと大和高校での目標・抱負－

大和高校に入学し、新しい学校生活への期待と不安が入り混じっていることと思います。まずは今までの自分を見直し、頑張った点、また頑張れなかった点をそれぞれ確認し、今後の高校生活での「目標・抱負」及びそれを実現させるための「具体的手立て」を書くことによって、高校生活の「新スタート」をきりましょう。

		学業面	部活動・委員会・行事など
中 学 校	頑 張 っ た 点		
	頑 張 れ な か っ た 点		
1 年 次	目 標 ・ 抱 負		
	具 体 的 手 立 て		

担
任

記載日 _____ 月 _____ 日

締切日 _____ 月 _____ 日

5. My Future Plan ー未来の自分を思い描こうー

6月には「2年次選択科目説明会」があり、夏休み前には仮調査票の提出、10月までには本調査票の提出があります。

そこで、1年生になった今、この“My Future Plan”を使い自分の将来設計(30歳位までの)をしてみましょう。ついこの間入学したばかりなのに、もう2年生の選択を決めなくてはならないの?と思っている人も多いことでしょう。また、ほとんどの人は、将来の自分の職業など分からないと思うでしょう。しかし、2年生の選択科目から「受験大学・学部」などの具体的な進路を考えなくてはなりません。そして、「受験大学・学部」などを考えるためには、将来の大まかな方向性を決めておく必要があります。大学卒業後の自分の仕事について、今からいろいろと考えておいて欲しいと思います。

人生の選択肢はいろいろあるはずです。自分の興味や適性をもとに、いくつか将来の設計図を書いてみましょう。書く時は、次ページの「“My Future Plan”を書くに当たっての注意」などを参照して下さい。また、インターネットなどで自分なりに調べてみましょう。

Plan	自分について考えてみよう
興味・関心のある職業分野	今まで学んだ教科、書籍、ニュースなどで関心のあるものをいくつか書こう
仕事の内容(具体的に書こう)	自己の適性(仕事や学問でむいていること)
その分野に進むのに必要となる資格・技能	特技・趣味・技能(資格を取るならこれがいい)
進むべき学部・学科	興味のある教科、得意な分野

担
任

記載日 _____ 月 _____ 日

締切日 _____ 月 _____ 日

“My Future Plan” を書くに当たっての注意

◇職業分野に関して

(ア) 職業の内容を知る

なりたい職業を見つけるためには、その内容を十分知る必要があります。同じような名前の職業もあり、一見とてもかっこ良くみえる職業もあります。そのイメージが本当に合っているでしょうか？あこがれていた職業が、本当は全然違うものかもしれません。十分調べてみましょう。

(イ) 必要な適性を知る

どんなになりたい職業でも、自分に合っていなければ、長続きしませんし、充実感も得られません。なってから「自分には向いていなかった」と思うより、今のうちに良く調べ、どのような適性が求められているか調べましょう。

(ウ) その職業についての生活を知る

美容師にあこがれてなったものの、ずっと立ちっぱなし、休みは友人たちと違う曜日で、一緒に出かけられない。コンピュータの会社に就職したのに、コンピュータを触っているより、そのプログラムソフトを売るための営業で一日中外回り…。仕事につくということは、仕事をして生活をするということです。どんな生活になりそうなのか調べてみましょう。

(エ) 必要な資格と知識を知る

職業によって、資格をとっておかないとつけない職業があります。また、とっておくと有利な資格もあります。また、特定の学問の知識の必要な職業もあります。高校生のうちに取れてしまう資格もありますし、ある程度の年齢の必要なもの、経験の必要なものもあります。直前になって焦らないように、今のうちに調べておきましょう。

◇学部・学科について

(ア) やりたいことや、頑張れることを選ぶ

あこがれている職業につくためには、まず必要な勉強をしなくてはなりません。あこがれている職業ですから、「興味のある、好きな」勉強でしょう。または、「これなら楽しめる、頑張れる」学問でしょう。また、なりたい職業が決まっていなくても、この視点から、学部学科を決めても良いでしょう。興味を持って、真剣に取り組める学問かどうかを、十分調べてみましょう。

(イ) 名前に惑わされないこと

学部学科には、同じような名前がたくさんあります。同じような名前だからといって、同じことが学べるわけではありません。たとえば、ある大学の獣医学部には「動物資源学科」と「生物資源学科」があり、まったく異なる学問研究をしています。実際、間違えて入学してしまい、1年後に受験しなおした例もあります。また、「～情報」という名前の学科は大変多く、コンピュータを使う学科であると勘違いをしやすい学科ですが、コンピュータは一切使わない学科もあります。よく調べ、名前に惑わされないようにしましょう。

(ウ) 進学してからの生活を調べる

実験の多い理系の学部では、講義よりも、実験・実習に費やす時間が多いですし、文系の学部では、図書館で資料を探して調べ物をする人が多いでしょう。自分が、進学した後、どんな生活になりそうなのか調べてみましょう。

(エ) 必要な資格と知識を知る

同じ学部でも、学科によって取れる資格が違ったり、また、その学部を出ていること自体が、資格になったりすることがあります。卒業後までを見越して、職業・学部学科・資格を結びつけて考えておきましょう。

⑨ 総括的な評価のための補助簿（例）

キャリア・パスポートやその他ワークシートの記述、また生徒同士の話し合い活動の観察を通して、個々の生徒の記録を取り、観点別に補助簿にまとめる。

補助簿の記載方法

- ・各観点の評価メモを複数残せるように、評価の観点に「○」を記録する欄は2枠設けられている。記入の際は一つの評価メモにつき一枠使用し、評価の観点の欄に番号付きの「○」を記入する。
- ・右側の担任メモ欄に(1)の番号に対応した「○」の根拠となるメモを残す。

総括評価としては、例えば「丸が3個以上なら総括評価を「○」とする」、「各観点で全てに「○」がついていれば総括評価を「○」とする」などの基準が考えられるが、教師間で共通理解の上で評価することが重要である。

生徒	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	担任メモ	総括
A		①	②	①働く意義と目的について社会性と自己実現の側面を見だし、自分の言葉でしっかりと説明することができた。 ②キャリア・パスポートの記述において、高校での学習面と部活動・学校行事などの面について、目標とそれを実現させるための具体的な手立てをもって取り組もうとしている。	
B	①	②	③	①文理選択、科目選択において適切な情報を集めて自己の将来に必要な物を把握し、選択決定ができた。 ②キャリア・パスポートの記述において、現在の学習と社会・職業生活とのつながりを理解し、自己の将来を見通してMy Future Planを作成することができた。 ③キャリア・パスポートの記述において、自己の能力や適性をもとに、将来を設計しようとしている。	○
C					

⑩ まとめ（解説として）

本校では、「知・徳・体ともにそなえた円満にして実践力のある人材の育成」を教育目標としており、学力向上進学重点校エントリー校でもあることから、生徒の第一志望の実現に向けた支援に力を入れて取り組んでいる。その中で、今回特別活動において育成したい資質・能力として、自己の役割や適性を見つけ出し、将来の自己の在り方や生き方を設計することができる、キャリア教育的視点からの自己実現に重点を当てて研究を行った。

一連のホームルーム活動を通して、自己実現を図ることの意義を理解し、将来の生き方を描く中で現在の自己の課題を見だし、生活や学習の在り方を考えて科目選択や進路選択に活かしていけるような指導計画案を作成した。

本研究では、1年生のホームルーム活動を題材として設定しており、進路の手引きと一体化されたキャリア・パスポートを活用し、各所でこれまでの自己の振り返りや未来の自分について考える等、自己と向き合う活動を通して、自らの能力や適性を生かして仕事や役割を担うことが社会づくりにつながることを理解し、目指すべき自己の将来像を描くことができるような指導の工夫をした。

本指導案では、グループでの意見の共有を行い、他者の考えや視点から新たな発見を得る中で、改めて自分の考えや大切にしたい思いを見つめられるような展開にした。これらの活動を通して、学習や生活の見通しを立てて、新たな学習や生活への意欲につなげるようにしたい。

(1) 目指す生徒の姿：

- ・多様な性のあり方を知ること、自分の個性をどのように生かしていけるかを考えようとしている。
- ・自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かそうとしている。
- ・人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動しようとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

① 生徒（学校）の様子

本校は普通科、スポーツ科学科、音楽科、美術科という4学科からなる学校で、多様な個性を持った生徒が在籍している。自主性が高く、生徒それぞれの目標に向かって日々地道な努力を積み重ねることができる。

授業やホームルーム活動も学科ごとのまとまりで行うことが多く、他の学科の生徒と関わる機会はあまりない。特に、音楽科と芸術科は各1クラスなので、学科ごとの年次をまたいだ交流はあるが、他学科との交流は少なく、人間関係は狭くなる傾向がある。

また、自己表現を重要視する学科の特性上、様々なアイデンティティを持った生徒がおり、規律で押さえつけるような校風はなじまず、生徒それぞれの自主性を重んじる傾向にある。

生徒の中にも常にLGBTQ が在籍しているような状況になりつつある。個々に特例として対応するよりも、学校全体の体制がどのように対応するか、という姿勢が大事であると認識している。そのためには学校も生徒も変化していかなければならない。その第一歩として、本研究ではこのテーマを企画した。

② 内容のまとめり：

ホームルーム活動 (2) 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

③ 議題：「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して」

④ ホームルーム活動(2)で育成を目指す資質・能力

- 将来の自立と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をより良くするために個性を活かすための知識、技能を身に付けている。【知識及び技能】
- 個人が直面する問題を発見することができるとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 自己のあり方を主体的に改善するとともに、自分らしい生き方を選択しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 単元の評価規準

【ホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長および健康安全」の評価規準】

将来の自己と学びを結びつけるために必要な知識・技能	自己の生活課題を改善するための思考・判断・表現	主体的に人間としてのあり方生き方を選択しようとする態度
・将来の自立と現在の学習とのつながりを理解している。自己の生活をより良くするために個性を活かす方法を身に付けている。	・個人が直面する問題を発見するとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定をしている。	・自己のあり方を主体的に改善するとともに、自分らしい生き方を選択しようとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	交通安全講話 ・ねらい 交通ルールを知り、安全に通学できるようにする。 ・活動 DVDを視聴し、振り返りを行う。	交通ルール、法規を知る。またそれらを守ることで自らの身を守ることができる。	通学路での危険個所を認識し、危険を回避できるような行動をとれる。	通学時に安全に登校できるように、交通ルール、法規を守ろうとする。
ホームルーム活動2	薬物乱用防止講話 ・ねらい 薬物は心身に重大な影響を及ぼし、社会生活を送ることを困難にさせることを理解し、乱用を回避する。 ・活動 講演を聞き、振り返りを行う。	薬物の使用により心身に重大な影響があることを知る。その結果、社会生活を送ることが困難になることも理解しようとする。使用にいたるきっかけについても理解する。	薬物を使用しない、使用にいたるきっかけを回避するような選択ができる。	薬物を乱用しないようにしている。

ホームルーム活動3	<p>保健講話 「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらい <p>意外に身近に存在するLGBTQについて知り、当事者による講演を聞くことで、自分の個性、ほかの人の個性を尊重し自分らしい生き方をできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 <p>講演を聞く。</p>	多様な性のあり方を知る。また自分の個性を知り、どのように生かしていけるか。	自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる。	他の人の個性を尊重できるようになり、また自分の個性を認め、自分らしい生き方を選択しようとしている。
-----------	---	---------------------------------------	--	---

⑦ ホームルーム活動について

ア 議題

「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」

NPO法人Ribbit の講師による講演会を行う。今回はLGBTQ の基本的な知識と、意外なほど身近にもいるという実感を持たせる。身近にいる多様な人々に対して、どのようなコミュニケーションをとればいいのか、普段からどのような事に気を付ければいいのか、敷衍して考えられるようになればよい。

イ 本時における目指す生徒の姿

- ・ 多様な性のあり方を知ること、自分の個性をどのように生かしていけるかを考えようとしている。
- ・ 自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かそうとしている。
- ・ 人の個性を認められるようになり、解決に向けて行動しようとしている。

ウ 本時の展開

	生徒の活動	目指す生徒の姿
準備・導入 (5分)	各教室でChromebook の接続、通信点検 講師紹介、諸注意	
展開 (40分)	Ribbit による講演会	多様な性について理解する。 他者を理解し、受け入れられるようになる。 自分を理解し、受け入れられるようになる。

まとめ (5分)	オンラインでの質疑応答 事前に解答してもらったアンケートへの応答も 行う 機材の片付け	
-------------	--	--

・事前学習

Ribbit が公開している多数の動画を視聴し、LGBTQ の基本について学習する。分からない点、理解できない点などをまとめておく。

・事前準備

Google フォームへアンケートを作り、疑問点や相談したいことなどをアンケートに解答させる。Ribbit の公開している動画資料へのリンクなども掲載する。プライバシーへの配慮などから、職員を経由せず、直接Ribbit へ送信する。このことは、事前に生徒に周知する。

各教室へZoom で配信するため、機材準備を生徒主体で行う。保健委員の生徒が、機材設定と、資料配布などを行う。保健委員の生徒については、事前にZoom への接続講習会を行い、当日の準備が滑らかに出来るようにする。

・事後対応

Ribbit の方には、講演会後残っていただいて、個別相談を短時間ではあるが行う。

・事後学習

講演会のアンケートとともに、LGBTQ の人が学校生活を過ごすうえで困難になりそうなことを想像する。また、自分で困っていること、難しいことを書き、それがどのようにすれば軽減するか考える。

⑧ 総合的な評価

評価については、観点毎に十分満足できる活動の状況であれば○を付け、総合的に評価する。今回のホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長および健康安全」は、講演やDVD視聴の活動のためまとめて総括するような補助簿としてみた。

出席番号	目指す生徒像 氏名	ホームルーム活動1			ホームルーム活動2			ホームルーム活動3			メモ	総括
		知識	表現	態度	知識	表現	態度	知識	表現	態度		
		交通ルール、法規を知る。またそれらを守ることのできる。またそれらを守ることのできる。	通学路での危険箇所を認識し、危険を回避できるような行動をとれる。	通学時に安全に登校できるように、交通ルール、法規を守ろうとする。	薬物の使用により心身に重大な影響があることを知る。その結果、社会生活を送ることが困難になることも理解しようとする。使用にいたるきつかけについても理解する。	薬物を使用しない、使用にいたるきつかけを回避するような選択ができる。	薬物を乱用しないようにしている。	多様な性のあり方を知る。また自分の個性を知り、どのように生かしていけるかを考えようとしている。	自分の困難を見つけ、同じように他人の困難を考え、他者とのコミュニケーションや、生活の課題発見に活かせる。	他の人の個性を尊重できるようになり、また自分の個性を認め、自分らしい生き方を選択しようとしている。		
1												
2												
3												

⑨ まとめ（解説として）

動画視聴、外部講師による講演会などは比較的よく行われるが、授業時間の1時間分を全て使うことが多い。そのため、本校では振り返りをプリントなどで行うことができない。そこで、観察や発言を評価の資料とするなどの工夫が必要である。講演を聞きながら、動画を見ながら書くようなメモなどを作る方がよいかもしれない。いくつかのLHRをまとめた振り返りワークシート等で、生徒の理解を見たりする形も考えられる。